

**簿記の教科書**  
**日商1級 工業簿記・原価計算 3**  
**基本問題 答案用紙**

答案用紙はダウンロードでもご利用いただけます。

TAC出版書籍販売サイト・サイバーブックストアにアクセスしてください。

<https://bookstore.tac-school.co.jp/>

## 問1 直接原価計算

[設問1]

	損 益 計 算 書	(単位：円)
I 売 上 高		( )
II 売 上 原 価		
1. 期首製品棚卸高	( )	
2. 当期製品製造原価	( )	
合 計	( )	
3. 期末製品棚卸高	( )	( )
売上総利益		( )
III 販売費及び一般管理費		( )
営業利益		( )

[設問2]

	損 益 計 算 書	(単位：円)
I 売 上 高		( )
II 変動売上原価		
1. 期首製品棚卸高	( )	
2. 当期製品製造原価	( )	
合 計	( )	
3. 期末製品棚卸高	( )	( )
変動製造マージン		( )
III 変動販売費		( )
貢献利益		( )
IV 固定費		
1. 加工費	( )	
2. 販売費	( )	( )
直接原価計算の営業利益		( )
期末棚卸資産の固定費		( )
計		( )
期首棚卸資産の固定費		( )
全部原価計算の営業利益		( )

問2 直接標準原価計算

損 益 計 算 書		(単位：円)
I	売 上 高	( )
II	標準変動売上原価	( )
		( )
III		( )
		( )
IV	標準変動費差異	
1.	価 格 差 異 [ ] ( )	
2.	数 量 差 異 [ ] ( )	
3.	賃 率 差 異 [ ] ( )	
4.	時 間 差 異 [ ] ( )	
5.	予 算 差 異 [ ] ( )	
6.	能 率 差 異 [ ] ( )	
7.	変動販売費予算差異 [ ] ( ) [ ] ( )	
	実際貢献利益	( )
V	固 定 費	
1.	固定製造間接費 ( )	
2.	固定販売費及び一般管理費 ( )	( )
	直接原価計算方式の営業利益	( )
	固定費調整額 [ ] ( )	
	全部原価計算方式の営業利益	( )

(注) 上記の  内には適切な名称を、( ) 内には金額 (単位：円) を、[ ] 内には+または-の符号を記入しなさい。

## 問1 固定分解

(1)  $a = \underline{\quad\quad\quad}$  千円  $b = \underline{\quad\quad\quad}$  千円

(2)  $a = \underline{\quad\quad\quad}$  千円  $b = \underline{\quad\quad\quad}$  千円

## 問2 CVP分析

(1) ① 損益分岐点売上高  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

② 損益分岐点販売量  $\underline{\quad\quad\quad}$  個

(2) 目標営業利益達成売上高  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

(3) 目標売上高営業利益率達成売上高  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

(4) 安全余裕率  $\underline{\quad\quad\quad}$  %

(5) ① 税引前目標経常利益額  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

② 目標経常利益額を達成する販売量  $\underline{\quad\quad\quad}$  個

## 問3 感度分析

(1) 販売価格が10%上昇したときの営業利益  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

(2) 販売量が5%増加したときの営業利益  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

(3) 販売価格が5%下落し、販売量が15%増加したときの営業利益  
 $\underline{\quad\quad\quad}$  円

(4) 製品1個あたり変動売上原価が10%増加したときの営業利益  
 $\underline{\quad\quad\quad}$  円

(5) 固定費が25%増加したときの営業利益  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

## 問4 多品種製品のCVP分析

(1) 製品A  $\underline{\quad\quad\quad}$  個 製品B  $\underline{\quad\quad\quad}$  個

製品C  $\underline{\quad\quad\quad}$  個

(2) 製品A  $\underline{\quad\quad\quad}$  円 製品B  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

製品C  $\underline{\quad\quad\quad}$  円

## 問1

(ケース1) A製品販売量 \_\_\_\_\_ 個  
B製品販売量 \_\_\_\_\_ 個  
予想営業利益 \_\_\_\_\_ 円

(ケース2) A製品販売量 \_\_\_\_\_ 個  
B製品販売量 \_\_\_\_\_ 個  
予想営業利益 \_\_\_\_\_ 円

## 問2

A製品 \_\_\_\_\_ 個      B製品 \_\_\_\_\_ 個  
予想営業利益 \_\_\_\_\_ 円

## 1. x1年度予定損益計算書 (単位:円)

	10月	11月
売上高	( )	( )
変動売上原価	( )	( )
変動製造マージン	( )	( )
変動販売費	( )	( )
貢献利益	( )	( )
固定費		
加工費	( )	( )
販売費・一般管理費	( )	( )
固定費計	( )	( )
営業利益	( )	( )
支払利息	( )	( )
経常利益	( )	( )

2. x1年度予定貸借対照表（単位：円）

	10月	11月
流動資産		
現金	( )	( )
売掛金	( )	( )
製品	( )	( )
原材料	( )	( )
流動資産計	( )	( )
固定資産		
土地	( )	( )
建物・設備	( )	( )
固定資産計	( )	( )
資産合計	( )	( )
流動負債		
買掛金	( )	( )
借入金	( )	( )
流動負債計	( )	( )
固定負債	( )	( )
純資産		
資本金	( )	( )
資本剰余金	( )	( )
繰越利益剰余金	( )	( )
純資産計	( )	( )
負債・純資産合計	( )	( )

## 問1

	(単位：円)	
	X事業部	Y事業部
売上高	( )	( )
変動費	( )	( )
貢献利益	( )	( )
管理可能個別固定費	( )	( )
管理可能利益	( )	( )
管理不能個別固定費	( )	( )
事業部貢献利益	( )	( )
共通固定費配賦額	( )	( )
営業利益	( )	( )

問2 税引後資本コスト率            %  
 投下資本利益率            %      残余利益            円

問3 投下資本利益率            %      残余利益            円

問4 投下資本利益率            %      残余利益            円

X事業部長は、  
 新製品Zの生産プロジェクトを  $\left\{ \begin{array}{l} \text{採用する} \\ \text{採用しない} \end{array} \right\}$  と推測される。

(注) 不要な文字を線で消しなさい。



## 問1

(単位：円)

	製品A	製品B	合計
売上高	( )	( )	( )
変動費			
製造原価	( )	( )	( )
販売費	( )	( )	( )
計	( )	( )	( )
貢献利益	( )	( )	( )
個別製造固定費	( )	( )	( )
製品貢献利益	( )	( )	( )
固定費			
製造固定費			( )
販売費・一般管理費			( )
計			( )
営業利益			( )

## 問2

売上高	円
標準変動製造原価	円
標準変動販売費	円
実際貢献利益	円

問3

差異分析表(I) (単位：円)

	製品A	製品B	合計
予算営業利益	-	-	
販売価格差異	( )	( )	( )
販売数量差異	( )	( )	( )
変動費差異	( )	( )	( )
固定費差異	-	-	( )
実際営業利益	-	-	

差異分析表(II) 販売数量差異の分析 (単位：円)

	市場総需要量差異	市場占拠率差異	合計
製品 A	( )	( )	( )
製品 B	( )	( )	( )

差異分析表(III) 変動費差異の分析 (単位：円)

	製品A	製品B	合計
直接材料費差異	( )	( )	( )
直接労務費差異	( )	( )	( )
変動製造間接費差異	( )	( )	( )
変動販売費差異	( )	( )	( )
合計	( )	( )	( )

(注) 各差異分析表の( )内には、不利差異であれば「U」、有利差異であれば「F」と記入しなさい。なお、差異が0の場合は「-」と記入すればよい。

問4

①		②		③		④		⑤		⑥	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

## 問1 業務的意思決定①

(注) 下記の  内に、該当する数字を記入し、不要な文字を線で消しなさい。

追加注文を受けることにより、利益が  円  $\left\{ \begin{array}{l} \text{増加} \\ \text{減少} \end{array} \right\}$  するので、  
受注すべきで  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ある} \\ \text{ない} \end{array} \right\}$ 。

## 問2 業務的意思決定②

部品Pを  円以下で購入すれば、当社の利益水準は現状より悪化しない。

## 問3 業務的意思決定③

(注) 下記の  内に、該当する数字を記入し、不要な文字を線で消しなさい。

製品Qを製品Rに追加加工することにより、 円の  $\left\{ \begin{array}{l} \text{差額利益} \\ \text{差額損失} \end{array} \right\}$   
が発生するので、追加加工すべきで  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ある} \\ \text{ない} \end{array} \right\}$ 。

問1 設備投資の意思決定①

A設備をB設備に取り替えたほうが、正味現在価値が( )千円(大きい、小さい)のでA設備をB設備に(取り替えるべきである、取り替えるべきでない)。

(注) 不要な文字を線で消しなさい。

問2 設備投資の意思決定②

(1) ( )%

(2) 正味現在価値:( )万円

したがって、この案は(有利、不利)な投資案である。

(注) 不要な文字を線で消しなさい。また、正味現在価値がマイナスとなる場合は、金額の前に△を付しなさい。

問1 品質原價計算

- (1) 予防原價 \_\_\_\_\_  
評 價 原 價 \_\_\_\_\_  
内部失敗原價 \_\_\_\_\_  
外部失敗原價 \_\_\_\_\_

- (2) 予防原價 (            ) 万円  
評 價 原 價 (            ) 万円  
内部失敗原價 (            ) 万円  
外部失敗原價 (            ) 万円

## 問2 活動基準原価計算

### (1) 伝統的原価計算の方法によった場合

	製品H	製品I
直接材料費	( ) 円	( ) 円
直接労務費		
組立部門	( ) 円	( ) 円
仕上部門	( ) 円	( ) 円
製造間接費配賦額		
組立部門	( ) 円	( ) 円
仕上部門	( ) 円	( ) 円
合計	( ) 円	( ) 円
単位製造原価	@( ) 円	@( ) 円

### (2) 活動基準原価計算の方法によった場合

	製品H	製品I
直接材料費	( ) 円	( ) 円
直接労務費		
組立部門	( ) 円	( ) 円
仕上部門	( ) 円	( ) 円
機械関連費		
組立部門	( ) 円	( ) 円
仕上部門	( ) 円	( ) 円
段取賃金	( ) 円	( ) 円
購買費	( ) 円	( ) 円
修繕維持費	( ) 円	( ) 円
品質検査費	( ) 円	( ) 円
合計	( ) 円	( ) 円
単位製造原価	@( ) 円	@( ) 円



